

おらほの病院

101

「あたたかな医療をめざして」

諏訪中央病院 リレーコラム

「遠からんものは音にも聞け、近くば寄つて目にも見よ」は、名乗りを上げる際の口上として知られています。自分の姓名を告げ何者であるかを周囲に知らしめます。現代のアニメでも伝説の戦士が変身して名乗りを上げるシーンを見ることがあります。源平鎌倉の名乗りやアニメの名乗りと医療安全がどうつながるのでしょうか。

病院に來られた方は多くの場面でお名前の確認が行われていることにすでにお気づきだと思います。何度も名前を聞かれ、名乗ることの煩わしさを感じる方もおられるかも知れませんが、本人確認は医療安全の原点で最も重要なことのひとつと考えています。そして本人確認のみならず様々な場面で確認行動が行われています。

レントゲン撮影なら胸部なのか腹部なのか腕や足なら右なのか左なのか

諏訪中央病院 副院長 兼 小児科部長 兼 医療安全管理部長

さとう ひろき
佐藤 広樹



か両側なのか正面からか側面からかなど、服薬なら1回1錠なのか2錠なのか、食前なのか食後なのか、そ

佐藤広樹（さとう・ひろき）

副院長兼小児科部長兼医療安全管理部長。山梨医科大学小児科、関連病院にて研修。日本小児科学会（小児科専門医・指導医）、日本医療メディエーター協会所属

医療安全事始

全ての道は確認から

もそも処方せん通りの薬剤なのか、など確認は多岐に渡ります。

先だって病院内各部署で確認行動に取り組み医療安全月間が行われました。その取り組みの一端を紹介いたします。

ある部署では「点滴の実施はバーコード、内服薬は本人確認、採血管の名前確認も忘れずに」をキーワードに活動してくれました。またある部署では配膳、配薬時にお名前確認を必ず行うことを目標にしてくれました。さらに「開始前 指さし・目視

忘れずに!!」と標語を作り読み上げをしてくれた部署もありました。一見すると地味で当たり前と思われるかも知れませんが、この当たり前をする事こそが非常に重要だと考えています。昼夜を問わず着実に確認行動をしているスタッフには感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に病院における医療安全とは

何かについて考えてみたいと思います。ここで用いる「安全」とは危険がないこと、もつと言えは許容出来ない危険（リスク）がないこととされています。裏を返せば医療は常にリスクを伴っていると云うことです。

医療安全活動とは、様々な要因で積み上がっていくリスクを一定程度まで下げ続ける営みと言えます。この営みには医療者だけでなく病院に來られる方のご協力が必要とされています。

病院でお名前を尋ねられました時は「ああこれが確認行動か」とご理解いただき、昔の武士ほどでなくて構いませんので声高らかに名乗っていただけると嬉しく思います。付き添いの方が答えられる際には、助さん格さんよろしく、ご紹介をお願いいたします。

次回は3月3日掲載予定
（題字は鎌田實名誉院長）